

第4学年道徳学習指導略案

令和3年1月16日(土) 3, 4校時

授業者 1組 三好 恵子

2組 金丸 百合野

3組 田後 洋平

- 1 主題名 「受け継がれる生命」 D 生命の尊さ
- 2 資料名 「バルバオの木」(『新しい 道徳』 東京書籍)
- 3 ねらい 受け継がれる生命のたくましさやすばらしさを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

4 授業の流れ

	学習活動 【◎中心発問 ○主な発問 ・児童の反応】	□留意点 ■評価【評価方法】
導入	(1) 導入の発問を通して、生きるために食べ物が必要であることを確認する。 ○みんなは普段、どんなものを食べていますか。 ・肉、魚、野菜。 ・他の生物を食べている。	□生きるためには食べ物が必要であることを確認し、教材へとつなげる。
展開	(2) 資料の本文を読み、命のつながりについて考える。 ○このお話を読んで、「命」についての感想を書きましょう。 ・他の動物の命を助けるために、自分を犠牲にしたことに感動した。 ・バルバオの木が倒れるところがつらかった。 ・バルバオは死んだのではなかったというところで強さを感じた。 ◎バルバオの木がゾウたちに「わたしのみきを食べなさい。」と言ったのは、どんな考えからなのでしょう。 ・ゾウはこのままでは死んでしまう。 ・私はまた新しく生きることができるから、食べてもらおう。 ・ゾウたちに自分の文も生き続けてほしい。	□書いた感想を伝え合い、自分にはない感じ方や言葉にできなかった感じ方に出会うようにする。 □焦点化するために、「命についての感想」ということを確認し、次の発問につなげる。 □動物たちを助けようとしたバルバオの考えについて話し合い、生命が受け継がれていくことについての感じ方を深める。 □ゾウだけでなく、鳥やシカにも生命があったことに触れながら話し合わせる。 ■受け継がれる生命のたくましさやすばらしさを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 【発言・ワークシート】
終末	(3) 学習を通して、考えたことを伝え合う。 ○食べ物と命のつながりについて考えましょう。考えをワークシートに書きましょう。 ・食べることで命をつないでいる。 ・人間もバルバオの世界と同じで、何かの命のおかげで生きていられることを忘れないようにしたい。	□「食べる」ということは、食べられる他の生き物の生命をいただくことであり、そのことを通して、人は生命を保つことができることを押さえさせる。